

経済・金融 フラッシュ

【5月米個人所得・消費支出】

消費支出(前月比)は+0.2%。前月から伸びが鈍化し、市場予想(+0.4%)も下回る

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 名目個人所得は市場予想に一致、個人消支出は市場予想を下回る

6月29日、米商務省の経済分析局(BEA)は5月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.4%(前月改定値:+0.2%)となり、+0.3%から下方修正された前月を上回り、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%に一致した。個人消費支出(名目値)は前月比+0.2%(前月改定値:+0.5%)と、こちらは+0.6%から下方修正された前月、市場予想(+0.4%)を下回った(図表1)。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出も前月比横這い(前月改定値:+0.3%)と、こちらも+0.4%から下方修正された前月、市場予想(+0.2%)を下回った(図表5)。貯蓄率は3.2%(前月:3.0%)と前月から上昇した。

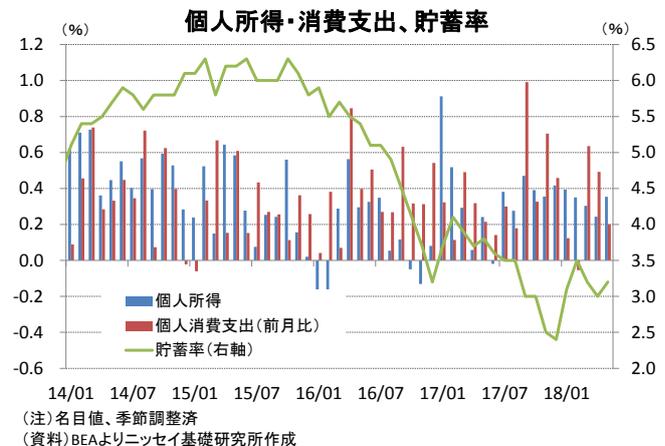
価格指数は、総合指数が前月比+0.2%(前月:+0.2%)と前月、市場予想(+0.2%)に一致した。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数も、前月比+0.2%(前月値:+0.2%)と、前月、市場予想(+0.2%)に一致した(図表6)。前年同月比では、総合指数が+2.3%(前月値:+2.0%)と、前月から加速、市場予想(+2.2%)も上回った。コア指数も+2.0%(前月値:+1.8%)と、こちらも前月値、市場予想(+1.9%)を上回った(図表7)。

2. 結果の評価: 3ヵ月ぶりに消費の伸びが大幅に鈍化

名目個人消費(前月比)は、3月が+0.6%、(図表1)
4月が+0.5%と高い伸びとなっていたが、5月は3ヵ月ぶりに大幅な鈍化となった。

一方、所得対比でも3ヵ月ぶりに消費の伸びが所得の伸びを下回った。この結果、貯蓄率は3ヵ月ぶりに反転した。

5月の個人消費は伸びが鈍化したものの、その前が2ヵ月連続で所得を上回る伸びとなっていたことから、伸びが鈍化することに違和感はない。一方、労働市場の回復持続、減税などに伴い可処分所得の伸びが続いているほか、消



1 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

消費者センチメントは依然として高い水準を維持しているため、5月の消費は鈍化したものの、今後も個人消費は堅調に推移することが見込まれる。

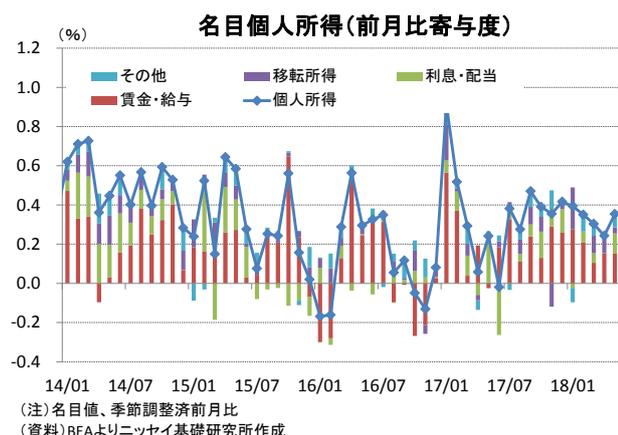
一方、物価は総合指数（前年同月比）がFRBの目標水準（2%）を明確に上回ったほか、物価の基調を示すコア指数も、物価目標に一致するなど、インフレ加速が明確となってきた。6月のFOMC会合では物価や政策金利見通しが上方修正されたが、今回の物価指標は概ねFRBの見通しに沿った動きと言えよう。

3. 所得動向: 利息・配当の伸びが加速

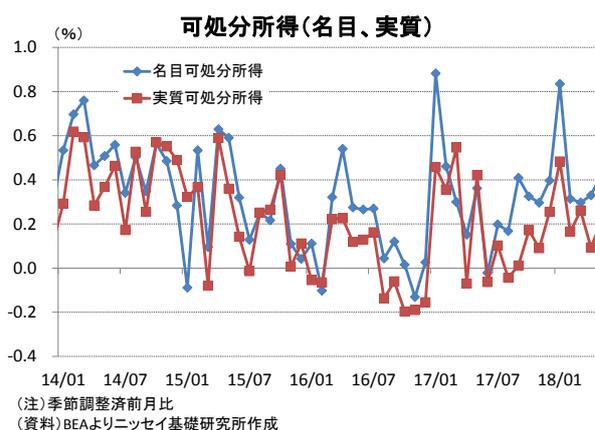
個人所得の内訳をみると賃金・給与が前月比+0.3%（前月：+0.3%）と2ヵ月連続で底堅い伸びとなったほか、利息・配当収入が+0.7%（前月：横這い）と、前月から大幅に伸びが加速した（図表2）。一方、移転所得は+0.2%（前月：+0.5%）とこちらは前月から伸びが鈍化した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は+0.4%（前月：+0.3%）と、前月から伸びが加速した（図表3）。税負担は▲0.2%（前月：▲0.4%）と2ヵ月連続で可処分所得を押し上げたものの、前月から押し上げ幅は低下した。一方、価格変動の影響を除いた実質ベースでは前月比+0.2%（前月：+0.1%）と、こちらも前月から伸びが加速した。

（図表2）



（図表3）



4. 消費動向: 財消費は堅調もサービス消費が鈍化

名目個人消費（前月比）は、財消費が+0.4%（前月：+0.5%）と前月から小幅な鈍化に留まる一方、サービス消費が+0.1%（前月：+0.5%）と、大幅に鈍化した（図表4）。

財消費では、耐久財が+0.1%（前月：▲0.2%）と前月からプラスに転じた一方、非耐久財が+0.6%（前月：+0.9%）と高い伸びを維持したものの、前月からは伸びが鈍化した。

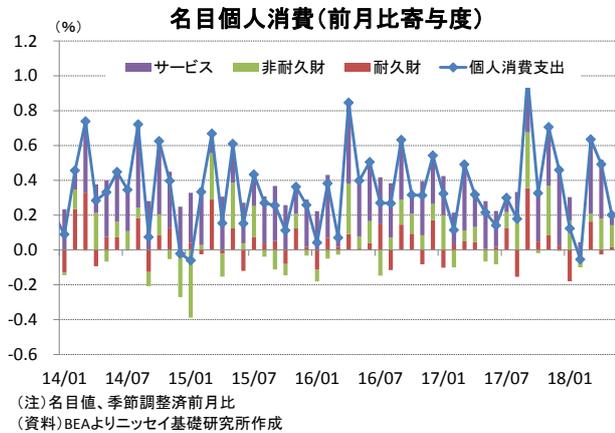
耐久財では、家具・家電が▲0.2%（前月：+1.3%）と前月からマイナスに転じたものの、自動車・自動車部品が▲0.2%（前月：▲2.3%）とマイナス幅を大幅に縮めたほか、娯楽財・スポーツカーが+0.3%（前月：+0.3%）と前月並みの伸びを維持した。

非耐久財では、衣料・靴が+0.9%（前月：+0.8%）と前月から小幅ながら伸びが加速する一方、ガソリン・エネルギーが+1.4%（前月：+3.8%）と、前月から大幅に伸びが鈍化した。

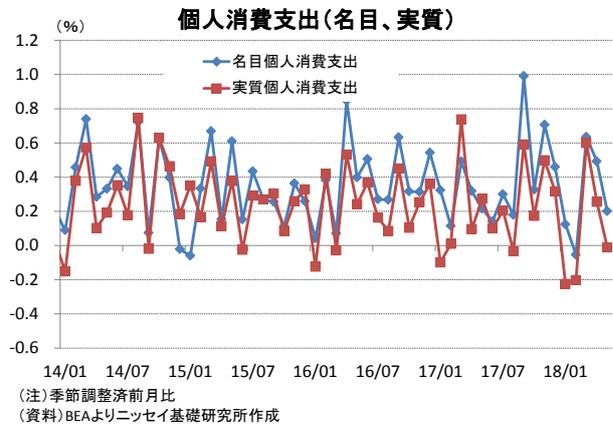
サービス消費では、外食・宿泊が+0.9%（前月：+0.1%）となったほか、金融・保険が+0.5%（前

月：+0.3%）と前月から伸びが加速したものの、娯楽が▲0.6%（前月：+0.5%）、住宅・公共料金が▲0.5%（前月+1.1%）と前月からマイナスに転じた。

(図表 4)



(図表 5)

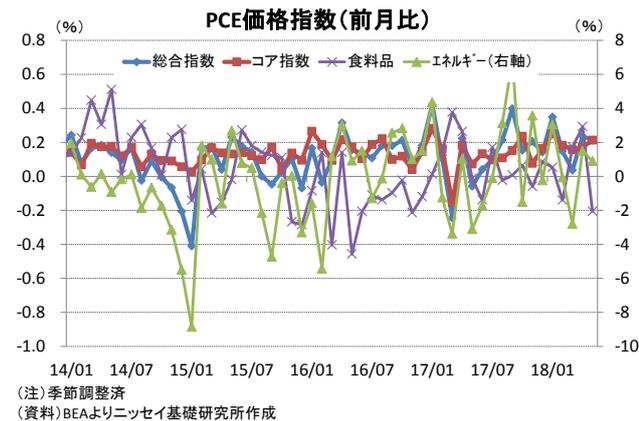


5. 価格指数:前年同月比でエネルギー価格は2桁の上昇

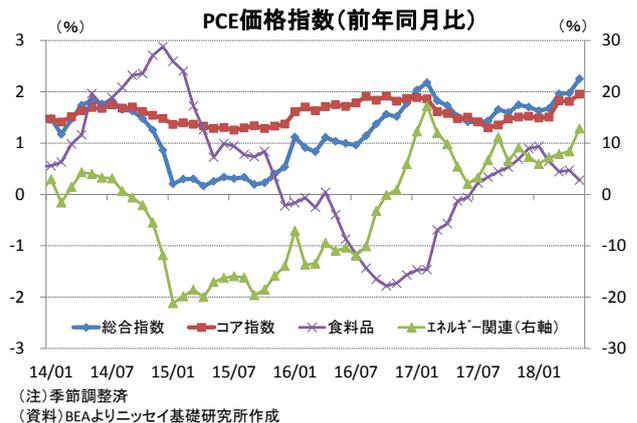
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が+0.9%（前月：+1.5%）と2ヵ月連続で物価を押し上げた（図表 6）。一方、食料品価格指数は▲0.2%（前月：+0.3%）と、こちらは3ヵ月ぶりにマイナスに転じた。

前年同月比では、エネルギー価格指数が+12.8%（前月：+8.4%）と前月から加速し、2桁の伸びとなった（図表 7）。エネルギー価格は16年11月以降、物価を押し上げる状況が持続している。最後に食料品価格指数は+0.3%（前月：+0.5%）と、こちらも11ヵ月連続のプラスとなっており、物価を押し上げている。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。